

この資料は審議会での検討資料であり、決定事項ではありません

資料3-3

北部地区（再編案A図）

成木7丁目→北部地区施設一体型小中一貫校
約30分(徒歩+公共交通)

富岡1丁目→北部地区施設一体型小中一貫校
約60分(徒歩・約4km)
約20分(徒歩+公共交通)

北部地区施設一体型
小中一貫校

小曾木2丁目→北部地区施設一体型小中一貫校
約55分(徒歩・3.7km)
約30分(徒歩+公共交通)

黒沢3丁目→北部地区施設一体型小中一貫校
約40分(徒歩+公共交通)

【再編案の考え方】

- ・小規模特認校として市内全域からの就学を可能とする。
- ・複式学級が生じないようにする。
- ・小中一貫教育推進のため、施設一体型小中一貫校を1校設置とする。
- ・地域内の児童・生徒の就学先の選択肢を増やす。

【再編方法】

① 地区内の小・中学校を再編し施設一体型小中一貫校とする。（2042年までに）

- ・小規模特認校とする。
- ・設置場所は成木小学校とする。
- ・地区内の児童・生徒が小規模以外の学校への就学を選択できる特定地域選択制を導入する。

【再編後の学校規模】		2059年
北部地区 施設一体型 小中一貫校	児童数	37
	学級数	6
	生徒数	24
	学級数	3

【再編における効果】			
項目	適正規模	適正配置	小中一貫教育
効果	×	△	◎
内容	望ましい規模（小学校：12～24学級、中学校9～18学級）を満たさない。	一部公共交通を活用するが40分程度の通学時間となる。	施設一体型小中一貫校1校となる。

※色付きゾーンは小学校区を、黒枠は中学校区を表す。